

xy 平面上の楕円 $C: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > b > 0$) を考える. C の 2 つの焦点を F_1, F_2 とする. また, C 上に $-a < p < a$ となる点 $P(p, q)$ をとり, P における接線を l とする. 点 F_1, F_2 から直線 l に垂線を下ろし, 交点をそれぞれ H_1, H_2 とする. このとき, $\triangle F_1PH_1$ と $\triangle F_2PH_2$ は相似であり, $\angle F_1PH_1 = \angle F_2PH_2$ であることを示せ. ただし, 点 H_1, H_2 は点 P と異なることを認めてよい

(22 山梨大 後医 4)

【答】 略

【解答】

$$C: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 \quad (a > b > 0)$$

楕円 C の焦点の座標 F_1, F_2 の座標は

$$F_1(c, 0), F_2(-c, 0)$$

$$c = \sqrt{a^2 - b^2} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

であり, $P(p, q)$ は楕円 C 上の点であるから

$$\frac{p^2}{a^2} + \frac{q^2}{b^2} = 1 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

が成り立つ.

$\triangle F_1PH_1$ と $\triangle F_2PH_2$ が相似であることを示すには, $\triangle F_1PH_1$ と $\triangle F_2PH_2$ はともに直角三角形であるから

$$PF_1 : F_1H_1 = PF_2 : F_2H_2$$

が成り立つことを示せばよい.

$$PF_1^2 = (p - c)^2 + q^2 = (p - c)^2 + b^2 \left(1 - \frac{p^2}{a^2}\right) \quad (\because \textcircled{2})$$

$$= \left(1 - \frac{b^2}{a^2}\right)p^2 - 2cp + c^2 + b^2$$

$$= \frac{c^2}{a^2}p^2 - 2cp + a^2 \quad (\because \textcircled{1})$$

$$= \left(\frac{c}{a}p - a\right)^2$$

である. $\frac{c}{a} > 0$, $-a < p < a$ から

$$\frac{c}{a}p < \frac{c}{a} \cdot a = c = \sqrt{a^2 - b^2} < a$$

が成り立つので

$$PF_1 = a - \frac{c}{a}p$$

である. また, 楕円の定義により $PF_1 + PF_2 = 2a$ が成り立つので

$$PF_2 = 2a - \left(a - \frac{c}{a}p\right) = a + \frac{c}{a}p$$

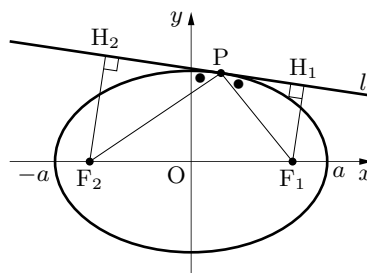
である.

- 楕円の定義により $PF_1 + PF_2 = 2a$ が成り立ち

$$PF_1^2 - PF_2^2 = \{(p - c)^2 + q^2\}^2 - \{(p + c)^2 + q^2\}^2 = -4pc$$

が成り立つ. ここで

$$PF_1^2 - PF_2^2 = (PF_1 + PF_2)(PF_1 - PF_2) = 2a(PF_1 - PF_2)$$



でもあるから

$$\begin{cases} PF_1 + PF_2 = 2a \\ PF_1 - PF_2 = -2\frac{c}{a}p \end{cases}$$

$$\therefore PF_1 = a - \frac{c}{a}p, PF_2 = a + \frac{c}{a}p$$

となる.

つぎに、楕円 C 上の点 $P(a, b)$ における接線 l の方程式は

$$\frac{px}{a^2} + \frac{qy}{b^2} = 1$$

$$\therefore b^2px + a^2qy = a^2b^2$$

であるから

$$F_1H_1 = \frac{|b^2pc + 0 - a^2b^2|}{\sqrt{b^4p^2 + a^4q^2}} = \frac{ab^2|\frac{c}{a}p - a|}{\sqrt{b^4p^2 + a^4q^2}} = \frac{ab^2}{\sqrt{b^4p^2 + a^4q^2}} PF_1$$

$$F_2H_2 = \frac{|b^2p(-c) + 0 - a^2b^2|}{\sqrt{b^4p^2 + a^4q^2}} = \frac{ab^2|-\frac{c}{a}p - a|}{\sqrt{b^4p^2 + a^4q^2}} = \frac{ab^2}{\sqrt{b^4p^2 + a^4q^2}} PF_2$$

である. よって

$$PF_1 : F_1H_1 = PF_2 : F_2H_2 \text{ すなわち } \triangle F_1PH_1 \sim \triangle F_2PH_2 \quad \dots\dots (\text{証明終わり})$$

が成り立ち

$$\angle F_1PH_1 = \angle F_2PH_2 \quad \dots\dots (\text{証明終わり})$$

である.

- $-a < p < a$ であり、点 P が $(0, \pm b)$ のとき、 l は x 軸と平行であり、 $\triangle PF_1F_2$ は $PF_1 = PF_2$ の二等辺三角形であり、 $\angle F_1PH_1 = \angle F_2PH_2$ は成り立つ.

点 P が $(0, \pm b)$ でないときを考える. 楕円 C は x 軸, y 軸に関して対称であるから、点 P は第 1 象限にあるとしてよい.

接線 l と x 軸との交点を Q とおき、線分 F_2P の P の側への延長上に点 R をとる.

$$\angle F_1PH_1 = \angle F_2PH_2 \quad \dots\dots (*)$$

を示すには

$$\angle F_1PH_1 = \angle RPH_1$$

であること、すなわち

$$PF_1 : PF_2 = QF_1 : QF_2$$

が成り立つことを示せばよい.

Q の座標は $(\frac{a^2}{p}, 0)$ であり、解答前半の議論より

$$PF_1 : PF_2 = \left(a - \frac{c}{a}p\right) : \left(a + \frac{c}{a}p\right) = (a^2 - cp) : (a^2 + cp)$$

$$QF_1 : QF_2 = \left(\frac{a^2}{p} - c\right) : \left(\frac{a^2}{p} + c\right) = (a^2 - cp) : (a^2 + cp)$$

であり

$$PF_1 : PF_2 = QF_1 : QF_2$$

が成り立つから、 $(*)$ は示された.

